



Buddycom コンソール
ユーザーガイド v1.0.8
企業間通信・設定編



改訂履歴

日付	バージョン	内容
2019/10/01	1.0.0	製品名称変更
2019/11/14	1.0.1	企業間通信 制限追記
2020/9/29	1.0.2	企業間通信 制限変更
2020/11/09	1.0.3	2段階認証 追記
2020/11/27	1.0.4	IPアドレス制限 追記
2021/8/12	1.0.5	E2E暗号化 追記 クライアント設定項目 追記
2021/11/26	1.0.6	音声テキスト化の辞書登録 追記
2022/5/19	1.0.7	クライアント設定項目 追記
2022/11/18	1.0.8	企業間通信の機能制限 追記と修正 個別通話のテキスト化・翻訳エンジンの変更 追記

目次

1	概要.....	4
2	企業間通信.....	4
2.1	使用できるテナント.....	5
2.2	使用を許可するテナント.....	6
2.3	企業間通信の追加.....	7
2.3.1	権限の確認.....	7
2.3.2	企業間通信の追加.....	7
2.4	連携したテナントのユーザーの利用.....	9
2.4.1	他テナントのユーザーを自テナントのグループに追加.....	9
2.4.2	ユーザーの使用状況の確認.....	11
2.5	企業間通信の解除.....	12
2.5.1	企業間通信の設定で利用できるユーザーを削除.....	12
2.5.2	企業間通信の連携を解除.....	12
2.6	企業間通信の機能制限.....	13
3	IP アドレス制限.....	14
3.1	IP アドレス制限の利用設定.....	14
3.2	IP アドレス制限の解除方法.....	15
3.3	IP アドレス制限の変更/削除方法.....	15
4	音声テキスト化の拡張設定.....	16
4.1	辞書登録.....	16
4.1.1	辞書登録の注意点.....	19
4.2	個別通話のテキスト化・翻訳エンジンの変更.....	19
4.2.1	個別通話のエンジンの注意点.....	21
5	2 段階認証.....	22

5.1	2段階認証の利用設定.....	22
5.2	認証コードの通知方法の設定.....	23
5.2.1	ユーザーの情報画面で設定.....	23
5.2.2	階層の情報画面で設定.....	24
5.3	2段階認証の通知.....	26
6	E2E 暗号化.....	27
6.1	E2E 暗号化の設定.....	27
6.2	クライアント (Buddycom アプリ) のパスワード入力	28
6.3	パスワードの変更.....	29
6.3.1	全グループ/個別通話のパスワード変更	29
6.3.2	指定のグループのパスワード変更.....	30
6.4	E2E 暗号化の制限事項/注意事項	30
7	クライアント 設定.....	31
7.1	クライアント 設定の追加.....	31
7.2	クライアント 設定の編集.....	31

1 概要

「設定」画面では、下記の操作を行います。

- ✓ 企業間通信
異なるテナントのユーザーとグループ通話をする機能の設定をします。
- ✓ クライアント設定
テナント内の全ユーザーのアプリ設定を一括管理します。



2 企業間通信

企業間通信を設定すると、自分のテナントのグループに他の企業(テナント)のユーザーを追加してグループ通話できます。

企業間通信では、通信する相手のテナントを「使用できるテナント」、または「使用を許可するテナント」として管理します。通信相手のテナントとの接続は、相手側のテナントにより承認されることで成立します。

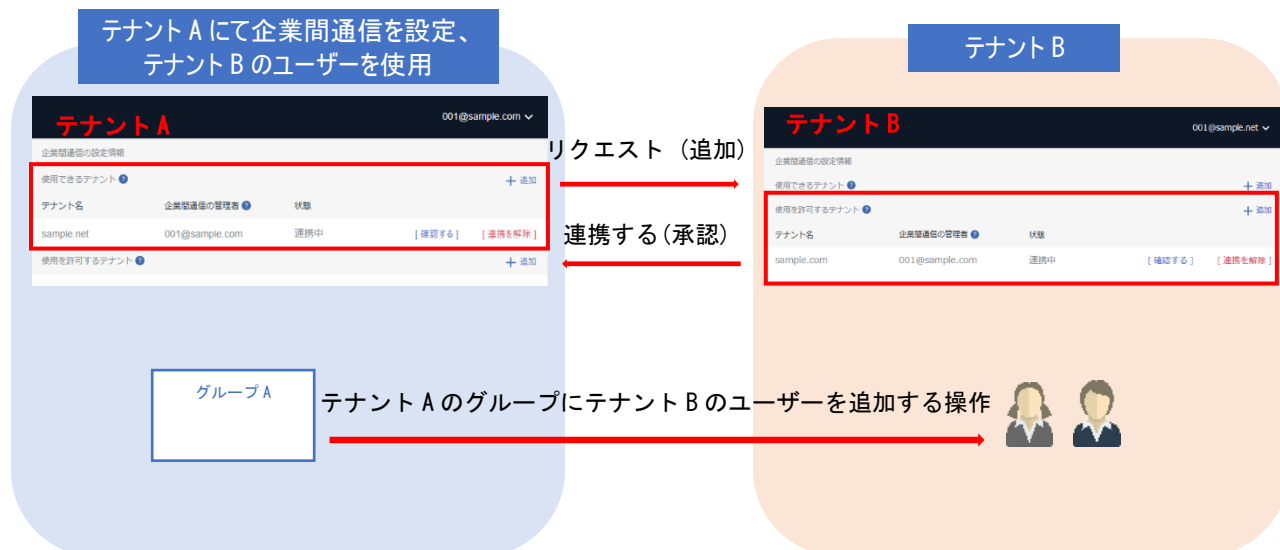
- ✓ 使用できるテナント: 自分のテナントのグループに追加したいユーザーが属するテナントを追加します。
- ✓ 使用を許可するテナント: 自分のテナントのユーザーの利用を許可する相手のテナントを追加します。
※使用を許可するテナントでは、ユーザーが参加するグループの一覧から、相手のテナントのグループを外すことはできません。

企業間通信の設定を行ったユーザーが「企業間通信の管理者」となります。企業間通信で接続した他テナントのユーザーの自分のテナントのグループへの追加・削除ができるのは、「企業間通信の管理者」のみです。

2.1 使用できるテナント

自分のテナントの通話グループに追加したいユーザーが属するテナントを設定します。

例)テナント A のグループにテナント B のユーザーを追加したい場合、テナント A の「使用できるテナント」としてテナント B を設定します。



連携中の画面情報



- ①テナント名 : 表示されているテナントのユーザーを自テナントのグループに追加することができます。
- ②企業間通信の管理者 : 企業間通信の設定、また、連携中のテナントのユーザーを自テナントのグループに追加する操作ができるユーザーです。
- ③状態 : 企業間通信の接続状態が表示されます。
- ④連携・確認操作 (状態によって表示される操作コマンドが異なります)

状態	操作コマンド	動作
未連携(リクエスト送信済)	—	—
未連携(リクエスト受信済)	連携する	企業間連携を承認します
連携中	確認する	連携中のテナントのユーザー利用状況を確認します

⑤連携解除・削除操作

※連携中のユーザーを利用している際は、利用設定の削除をしてから連携の解除を行います。

状態	操作コマンド	動作
未連携(リクエスト送信済)	削除する	リクエストを取り下げます
未連携(リクエスト受信済)	削除する	リクエストを拒否します
連携中	連携を解除	企業間連携を解除します

2.2 使用を許可するテナント

自分のテナントのユーザーを、グループに追加することを許可するテナントを設定します。

例)テナント A のユーザーをテナント B のグループへの追加を許可したい場合、テナント A の「使用を許可するテナント」として、テナント B を設定します。



連携中の画面情報



- ⑥テナント名 :テナント(B)のユーザーを他テナント(A)にて利用します。
- ⑦企業間通信の管理者:企業間通信の設定、また、連携中のテナントのグループに自テナントのユーザーを追加する操作を許可しているユーザーです。
- ⑧状態:企業間通信の接続状態が表示されます。
- ⑨ 連携・確認操作 (状態によって表示される操作コマンドが異なります)

状態	操作コマンド	動作
未連携(リクエスト送信済)	—	—
未連携(リクエスト受信済)	連携する	企業間連携を承認します
連携中	確認する	連携中のテナントのユーザー利用状況を確認します

⑩連携解除・削除操作

※連携中のテナントにて、ユーザーが利用されている際は、連携の解除ができません。解除したいテナントの管理者ユーザーに連携の解除を依頼してください。

状態	操作コマンド	動作
未連携(リクエスト送信済)	削除する	リクエストを取り下げます
未連携(リクエスト受信済)	削除する	リクエストを拒否します
連携中	連携を解除	企業間連携を解除します

2.3 企業間通信の追加

2.3.1 権限の確認

企業間通信の管理者(設定を行うユーザー)がコンソール権限のテナント管理権限を持っていることを確認してください。(設定方法は、「[2.5.1 コンソール権限](#)」をご参照ください。)



2.3.2 企業間通信の追加

「使用できるテナント」または「使用を許可するテナント」にテナントを追加します。



「+追加」をクリックするとテナント名の入力画面が表示されるので、企業間通信を行うテナント名を入力し、保存します。

※テナント名は、ログイン ID の@以降です。(例:001@sample.net※赤字部分がテナント名です)



テナント名を追加後、状態が「未連携(リクエスト送信済)」となります。リクエストを送信したテナントの管理者に連携の承認を依頼してください。



※「削除する」をクリックすることで、リクエストを取り下げることができます。

buddycom Console **テナント A** 001@sample.com

設定

- 企業間通信
- クライアント設定(オプション機能)

企業間通信の設定情報

使用できるテナント + 追加

テナント名	企業間通信の管理者	状態	
sample.net	001@sample.com	未連携 (リクエスト送信済)	[削除する]

使用を許可するテナント + 追加

リクエストを受信したテナントの設定タブに通知が表示されます。
「連携する」をクリックすると、企業間通信の接続が完了します。

buddycom Console **テナント B** 001@sample.net

企業間通信のリクエストが1件あります。相手のテナントと連携してください。

設定

- 企業間通信
- クライアント設定(オプション機能)

企業間通信の設定情報

使用できるテナント + 追加

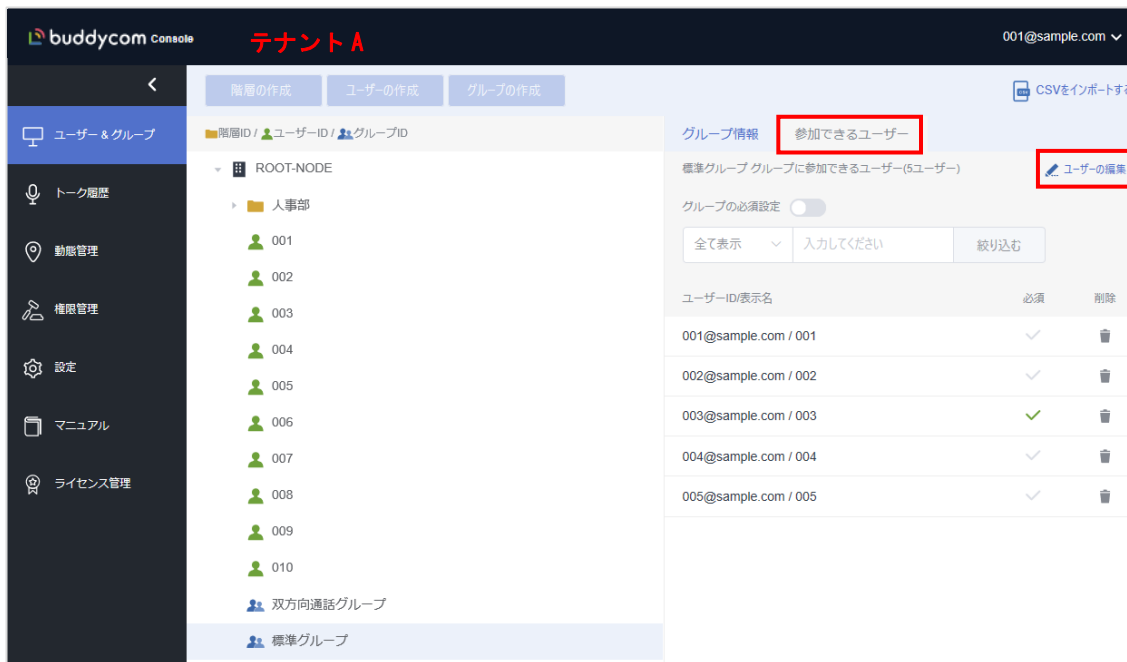
使用を許可するテナント + 追加

テナント名	企業間通信の管理者	状態		
sample.com	001@sample.com	未連携 (リクエスト受信済)	[連携する]	[削除する]

2.4 連携したテナントのユーザーの利用

2.4.1 他テナントのユーザーを自テナントのグループに追加

企業間通信にて、使用可能になった他テナントのユーザーを利用するグループをクリックし、「参加できるユーザー」タブの「ユーザーの追加」「ユーザーの編集」をクリックします。



自テナントの下に、連携したテナントのユーザー一覧が表示されます。
グループに追加したいユーザーを選択し、保存します。



※連携したテナントの階層の下に所属するユーザーを、自分のテナントのグループに追加する際は、ユーザーが所属するテナントの階層に、リンク管理者のユーザー権限を追加してもらう必要があります。

管理者ユーザーに権限を付与する階層を選択し、「企業間通信の設定ができるユーザーの追加」をクリックします。



階層を企業間通信の設定で利用できるユーザーの編集画面にて、階層下のユーザーの利用を許可するリンク管理者ユーザーを選択し、保存します。



企業間通信の設定にて階層の利用を許可したリンク管理者ユーザーにて、連携したテナントの階層下のユーザーを、自テナントのグループに追加します。



2.4.2 ユーザーの使用状況の確認

設定画面の企業間通信の設定より、「確認する」ボタンをクリックすることで、ユーザーの利用設定を行っているグループの一覧が表示されます。

The screenshot shows the Buddycom Console interface for Tenant A. The main content area displays the 'Enterprise Communication Settings' page. A table lists tenants with columns for 'Tenant Name', 'Enterprise Communication Manager', and 'Status'. The 'sample.net' tenant is currently in 'Connected' status, and the '確認する' (Confirm) button is highlighted with a red box. Below this, a modal window titled 'このテナントで利用しているsample.netのユーザー' (Users using sample.net in this tenant) is open, showing a list of users and their assigned groups.

テナント名	企業間通信の管理者	状態	
sample.net	001@sample.com	連携中	[確認する] [連携を解除]

ユーザーID	参加しているグループ
001	標準グループ
002	標準グループ
003	標準グループ
A	標準グループ

2.5 企業間通信の解除

2.5.1 企業間通信の設定で利用できるユーザーを削除

ROOT-NODE 以外の階層に追加した「企業間通信の設定で利用できるユーザー」を削除します。
※ROOT-NODE に設定されている「企業間通信の設定で利用できるユーザー」は、企業間通信の連携を解除すると自動的に削除されます。



2.5.2 企業間通信の連携を解除

企業間通信の設定画面の「連携を解除」をクリックします。利用しているユーザーの一覧が表示されます。
解除を続行する際は、「連携を解除」をクリックしてください。一覧に表示されているユーザーとグループの紐づけが解消され、リンクが解除されます。



連携が解除されると、状態が「未連携(リクエスト受信済)」に変化します。
「連携する」をクリックすると、再度企業間通信状態になります。
「削除する」をクリックすると、リクエストが削除されます。



※連携の解除後に、相手のテナントにて「削除する」をクリックした場合も、リクエストは削除されます。

※階層の権限を付与していたリンク管理者ユーザーの権限を削除せずに企業間通信を解除した際、連携の解除後に「不明なユーザー」と表示されます。「🗑」をクリックして削除してください。



2.6 企業間通信の機能制限

企業間通信には、以下の制限があります。

- ・他テナントのユーザーと個別通話をすることはできません。(アプリ制限)
- ・他テナントのユーザーに対して、マップ通話を行うことはできません。(アプリ制限)
- ・他テナントのユーザーは動態管理画面に位置情報を表示することはできません。(管理コンソール制限)
- ・他テナントのユーザーを CSV のインポートにて追加/編集/削除することはできません。(管理コンソール制限)
 ※他テナントのユーザーを CSV のインポートにてグループへの追加/削除することは可能です。
- ・他テナントのグループで発行された URL を利用してかんたんログインはできません。(管理コンソール制限)
- ・オプション設定をしているグループには、オプションが割り当てられたユーザーのみ追加することができます。
- ・オプション従量は、通話しているグループが属しているテナントから従量を消費します。
- ・各ユーザーは所属しているテナントのクライアント設定が適用されます。

3 IP アドレス制限

※この機能は、Talk Enterprise プランまたは Livecast Enterprise プランで、利用できます。

このセクションでは、管理コンソールにログインする際にアクセスをする端末のグローバル IP アドレスを制限する場合の設定について説明します。※グローバル IP アドレスがご不明な場合は、ネットワーク管理者にご確認ください。

3.1 IP アドレス制限の利用設定

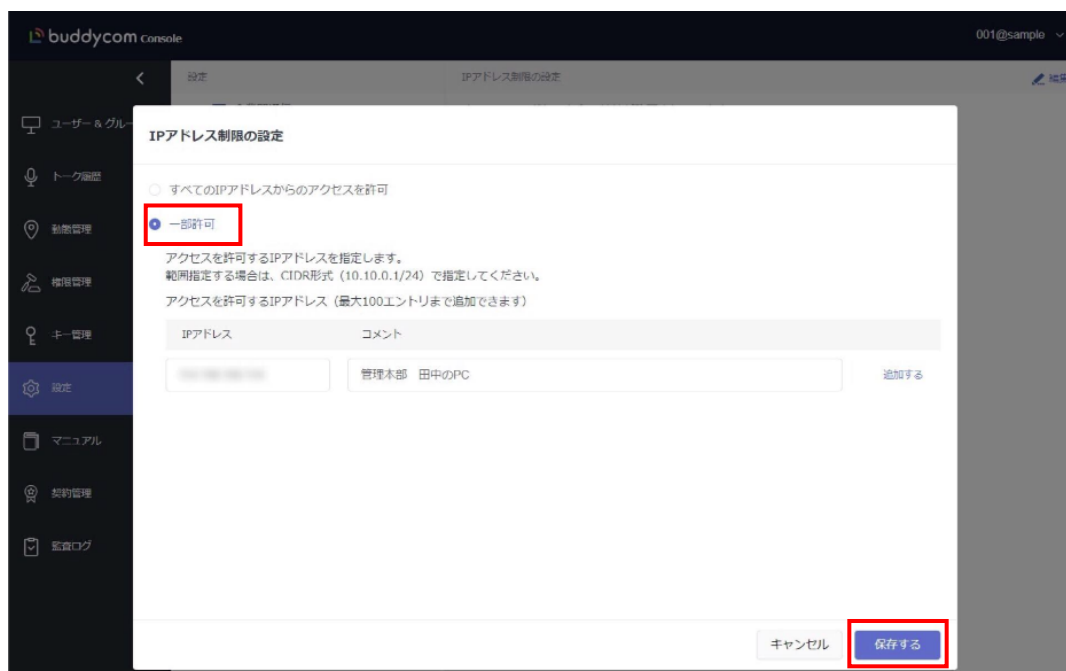
IP アドレス制限はデフォルトで「すべての IP アドレスからのアクセスを許可」設定になっているので、利用する場合は IP アドレスを登録する必要があります。

(1) IP アドレス制限の設定画面の「編集」をクリックします。



(2) 「一部許可」をクリックします。

(3) 登録する端末の IP アドレスを入力して「追加する」をクリックし、追加が出来たら「保存する」をクリックします。
※コメントは任意で指定してください。



(4) IP アドレス制限の設定画面に登録した IP アドレスが表示されたら設定は完了です。





3.2 IP アドレス制限の解除方法

IP アドレスを登録後、「すべての IP アドレスからのアクセスを許可」を選択して保存すると、IP アドレスの制限を解除できます。



3.3 IP アドレス制限の変更/削除方法

「」編集ボタンをクリックし、変更後に「確定」をクリックすると、登録した IP アドレスの変更ができます。

「」削除ボタンをクリックすると、登録した IP アドレスの削除ができます。

4 音声テキスト化の拡張設定

※この機能は、Talk Enterprise プランまたは Livecast Enterprise プランで、利用できます。

4.1 辞書登録

このセクションでは、音声テキスト化のテキスト化精度を向上するために、単語を辞書登録する設定について説明します。音声テキスト化の辞書登録機能は、テキスト化エンジンに「オート」または「AmiVoice」が設定されているグループでご利用いただけます。

以下のいずれかの設定をしている場合は辞書登録を行っても、音声テキスト化の辞書機能はご利用いただけません。


- ・テキスト化エンジンに「Azure Speech To Text」が設定されている
- ・テキスト化エンジンに「オート」が設定されていて、Buddycom アプリの「通話言語の切り替え」に、日本語以外の言語が設定されている

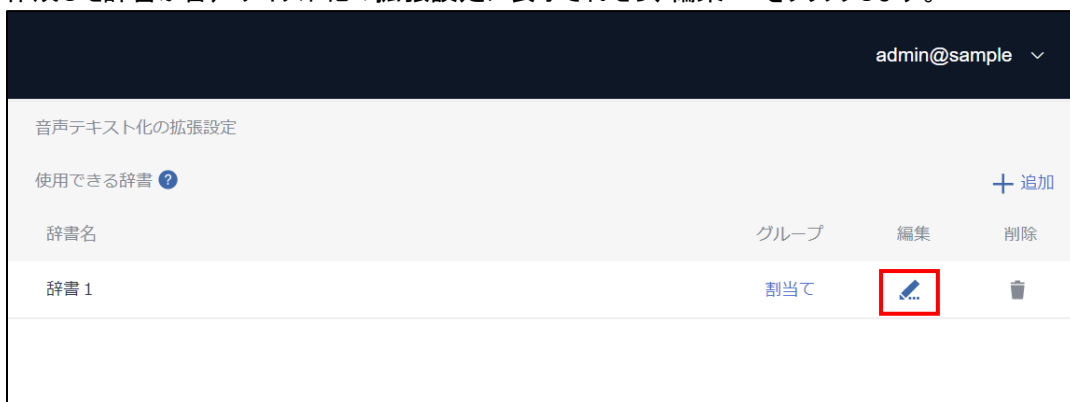
(1) 辞書登録画面の「追加」をクリックします。



(2) 任意の辞書名を入力して、「保存する」をクリックします。(辞書名は、追加した辞書の識別に利用します。)



(3) 作成した辞書が音声テキスト化の拡張設定に表示されたら、編集をクリックします。



(4) 単語を入力して「追加」・「保存する」をクリックします。入力項目の詳細は下表をご確認ください。

辞書の編集

辞書名

言語 テキスト カテゴリ

項目	説明
言語	登録する単語の言語を選択します。
読み	登録する単語の読み方を平仮名で入力します。
テキスト	テキスト化の結果として表記したいテキストを入力します。
カテゴリ	登録する単語に特に適合すると思われるものを選択します。 適合すると思われるものがない場合、「全般」を設定します。

カテゴリの活用例

音声データの文脈から、適したカテゴリを登録することで、以下のように、同じ読みで異なるテキストの辞書登録をした際に活用ができます。

事象登録内容

読み「サトウショウジ」テキスト「佐藤商事」カテゴリ「会社」

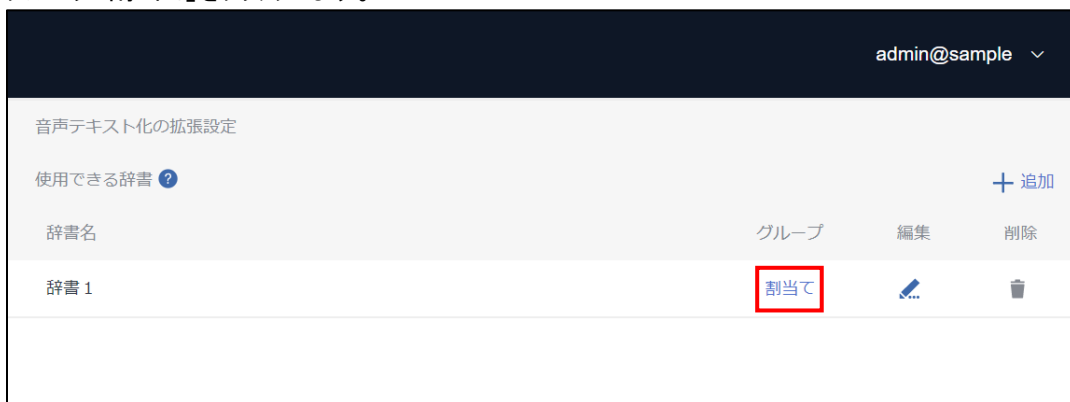
読み「サトウショウジ」テキスト「佐藤正二」カテゴリ「人名」

テキスト化結果

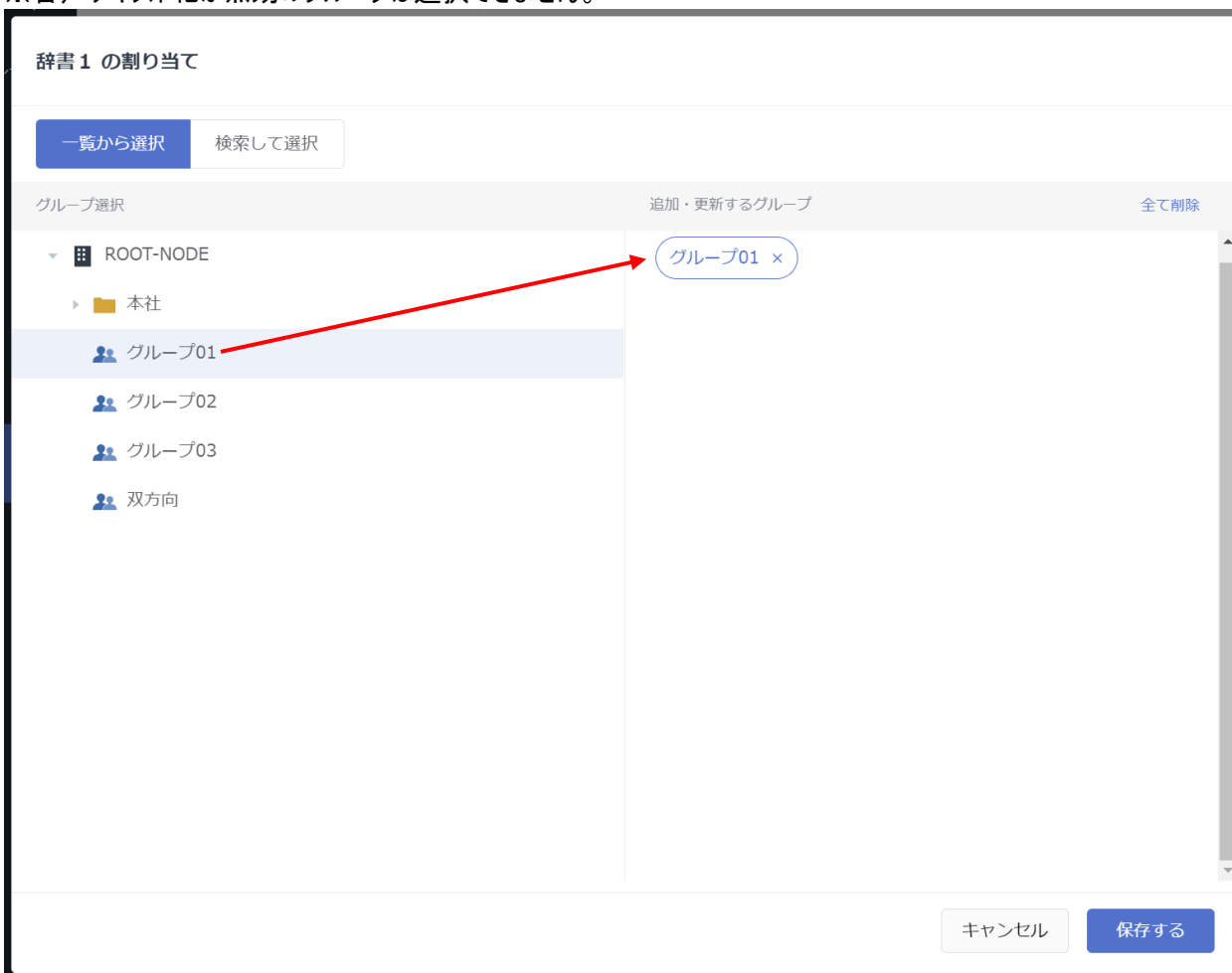
「佐藤正二さん対応をお願いします。」

「佐藤商事の田中さんがお呼びです。」

(5) グループ「割当て」をクリックします。



(6) 辞書を適用したいグループを選択して、「保存する」をクリックします。
※音声テキスト化が無効のグループは選択できません。



4.1.1 辞書登録の注意点

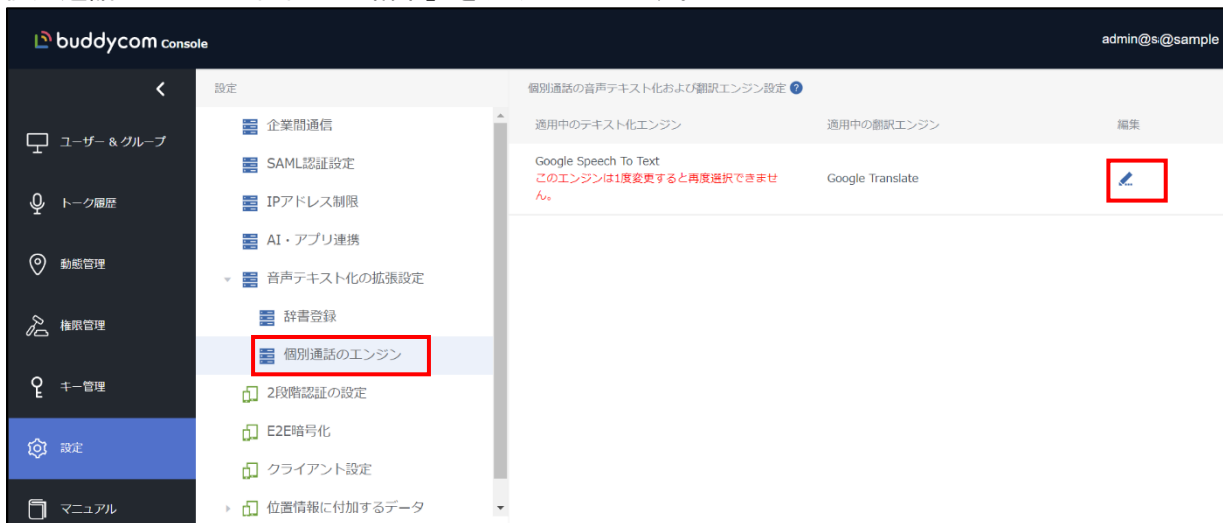
- ・テキスト化エンジンに Azure Speech To Text を設定している場合と、テキスト化エンジンにオートを設定しているかつ Buddycom アプリの「通話言語の切り替え」言語が日本語以外の場合は音声テキスト化の辞書登録機能は利用できません。
- ・1 テナントで作成できる辞書の最大数は 20 件です。
- ・1 辞書内の言語ごとの単語の最大数は 300 件です。
- ・1 グループに対して割り当てが可能な辞書は 1 つです。
- ・辞書登録は個別通話のテキスト化には適用されません。

4.2 個別通話のテキスト化・翻訳エンジンの変更

個別通話時に使用されるテキスト化エンジンと、翻訳エンジンを変更することができます。

個別通話にてテキスト化・翻訳を利用するには、個別通話を行う双方のユーザーの「音声テキスト化」「翻訳」オプションが ON になっている必要があります。
ユーザー情報は、管理コンソールの「ユーザー&グループ画面」にてご確認ください。

- (1) 個別通話のエンジン画面で「編集」をクリックします。



(2) ご利用になるテキスト化エンジンを選択して「OK」をクリックします。

テキスト化および翻訳エンジンの設定

テキスト化エンジンの選択

オート ^

オート ?

AmiVoice ?

Azure Speech To Text ?

キャンセル OK

(3) ご利用になる翻訳エンジンを選択して「OK」をクリックします。

テキスト化および翻訳エンジンの設定

テキスト化エンジンの選択

オート v

翻訳エンジンの選択

Google Translate ^

Google Translate

Azure Translator Text

DeepL

キャンセル OK

4.2.1 個別通話のテキスト化・翻訳エンジンの変更の注意点

- ・個別通話のテキスト化・翻訳エンジンはユーザー毎に設定を変更できません。
テナント内のすべてのユーザー間で行われる個別通話で使用されるエンジンが一括で変更されます。
※グループ通話は、各グループに設定されたエンジンにて、テキスト化および翻訳されます。
- ・テキスト化のエンジンに「Google Speech To Text」が初期設定されている場合は、一度テキスト化をその他のエンジンに変更した際に、再び「Google Speech To Text」には設定ができません。
※翻訳エンジンでは変更後も「Google Translate」の設定が可能です。
- ・個別通話のテキスト化に辞書登録は適用されません。

5 2段階認証

このセクションでは、iOSとAndroidのBuddycomアプリからログインする際に、2段階認証をする場合の設定について説明します。

2段階認証を使用すると、BuddycomアプリでIDとパスワードの入力した後に、所定の方法で通知される認証コード(認証コードの通知方法については、「4.2 認証コードの通知方法の設定」を参照してください)を入力することでログインが完了します。

※2段階認証を使用する場合、認証コードの通知方法が設定されていないユーザーはログインができないので、ご注意ください。

5.1 2段階認証の利用設定

2段階認証はデフォルトで「利用しない」設定になっているので、利用する場合は2段階認証機能を有効にする必要があります。

(1) 2段階認証の設定画面の「編集」をクリックします。



(2) 2段階認証を ON にして「保存する」をクリックします。



5.2 認証コードの通知方法の設定

2段階認証の認証コードの通知方法は、以下のいずれかの方法で設定します。

- ・ユーザーの情報画面で設定…ユーザー毎に2段階認証の通知方法を設定します。
- ・階層の情報画面で設定…階層に所属する全ユーザーに、共通の認証コードの通知方法を設定します。

5.2.1 ユーザーの情報画面で設定

認証コードの通知設定を行うユーザーを選択し、画面右側の「認証コードの通知方法」の編集ボタンをクリックします。

階層ID	ユーザーID/表示名	グループID	検索する	ユーザー情報	参加できるグループ
ROOT-NODE					
人事部					
	001 / 001			ユーザーID	001
	002 / 002			ユーザー表示名	001
	003 / 003			組織名	
	004 / 004			役職名	
	005 / 005			電話番号	
	006 / 006			メールアドレス	sample@science-arts.com
	007 / 007			マップ通話	利用中
	008 / 008			音声テキスト化	利用中
	009 / 009			翻訳	利用中
	010 / 010			動線管理	利用中
	オプション有グループ			LIVEキャスト	利用中
	オプション無グループ			認証コードの通知方法	未設定

認証コードの通知方法を編集します。通知方法については、表 4.2.1-1 を参照ください。

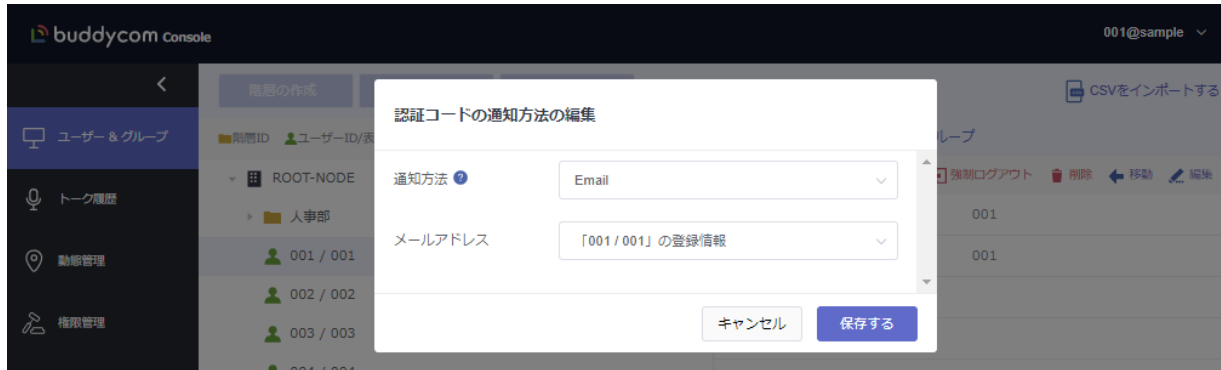
表 4.2.1-1 認証コードの通知方法

設定	認証コードが通知される方法
Email	メールアドレス欄(*1)に設定したメールアドレス宛に通知をします
管理コンソールに表示	管理コンソールの2段階認証の設定画面で認証コードを表示します。
未設定	既定の設定です。2段階認証を使用する場合、「未設定」のユーザーはBuddycomアプリにログインできません。

*1) メールアドレス欄の設定について

「ユーザー」の登録情報を選択した場合、ユーザー情報に登録されているメールアドレス宛に通知します。

ユーザー情報に登録されているメールアドレスとは別のメールアドレスに通知したい場合は、通知先としたいメールアドレスを入力してください。



5.2.2 階層の情報画面で設定

ユーザーが属する階層で通知方法を設定して、同じ階層に属するユーザーへの通知方法を一括して設定できます。階層で通知方法を設定する場合は、設定したい階層を選択して、画面右側の「認証コードの通知方法の設定」ボタンをクリックします。



通知方法の設定は、4.2.1 のユーザーの情報画面での設定と同じです(表 4.2.1-1 参照)。なお、階層への設定の場合、「サブ階層を含める」をONにすると、設定した階層下のすべての階層のユーザーにも同じ設定が適用されます。



5.3 2段階認証の通知

Buddycom アプリのログイン画面にてユーザーID、パスワードを入力すると、下記の画面のような認証コードの入力画面が表示されます。「4.2 認証コードの通知方法の設定」で設定した通知方法で通知される認証コードを入力してください。



認証コードの通知方法として、「管理コンソールに表示」を選択した場合は、管理コンソールの「設定」メニューの「2段階認証の設定」で、「認証コードの表示」をクリックして認証コードを表示してください。



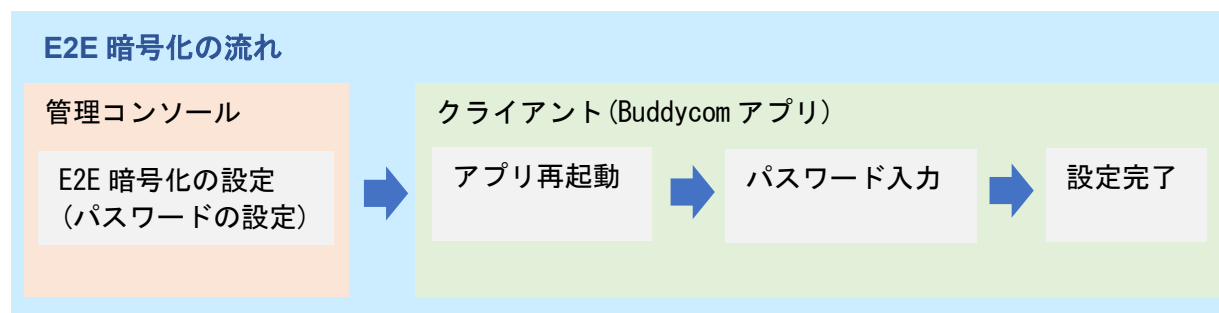
認証コードが誤っている場合や、認証コードの通知方法の設定が行われていない場合（「未設定」となっている）は、Buddycom アプリにログインできません。



6 E2E 暗号化

※この機能は、Talk Enterprise プランまたは Livecast Enterprise プランで、利用できます。

暗号化した通信データの復号(再生/表示)が、通信を行ったグループ(ユーザー)間でのみできるようにするため、セキュリティを向上させることができます。



6.1 E2E 暗号化の設定

設定画面から「E2E 暗号化」を選択し、「編集」をクリックします。



「E2E 暗号化の設定」画面にて、「E2E 暗号化」をオンにし、パスワードを設定したら保存をします。※パスワードには半角の英大文字、英小文字、数字を含む 8 文字以上 50 文字以下の文字列を指定してください。

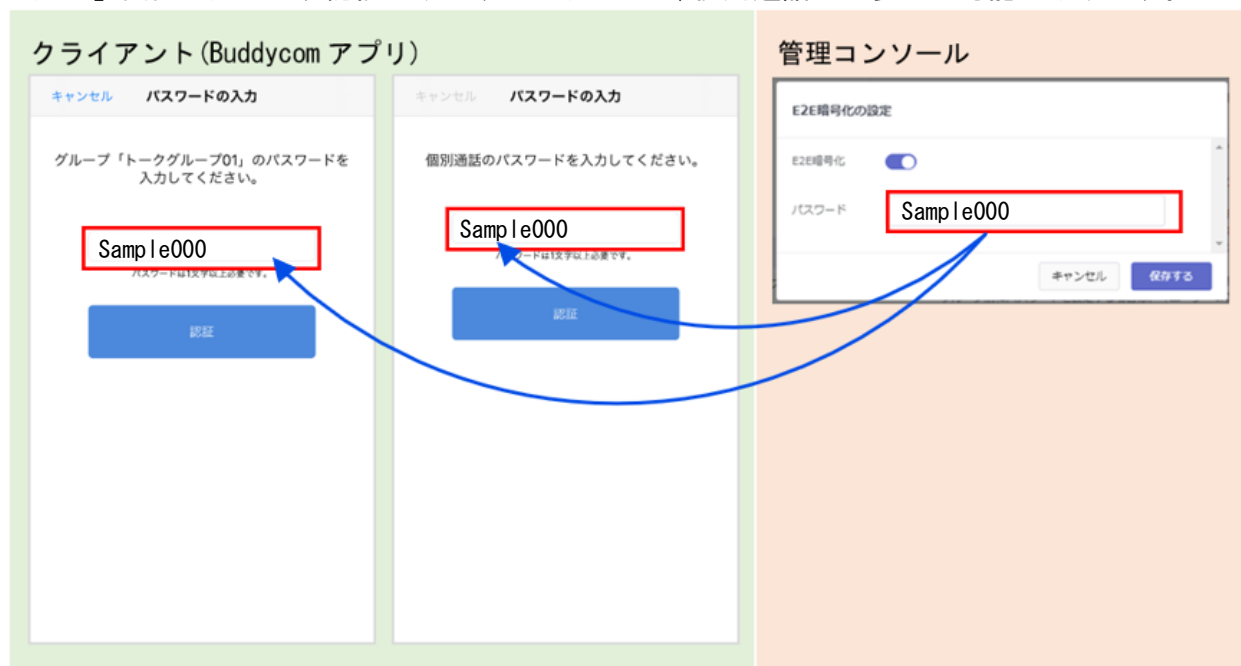


6.2 クライアント(Buddycom アプリ)のパスワード入力

E2E 暗号化の設定をオンにすると、テナント内の全てのグループ通話と個別通話の、通話データ、チャット、位置情報、ライブキャストに対して E2E 暗号化が有効になります。

E2E 暗号化の設定後に、所属している各グループと、個別通話用の認証パスワードの入力画面が Buddycom アプリに表示されます。

「E2E 暗号化の設定」画面にて設定を行ったパスワードを、アプリに表示された「パスワードの入力」画面に入力し、認証に成功するとグループ/個別通話への参加が可能になります。



例えば、ユーザーが2つのグループに参加していた場合は、パスワードの入力は3回(グループA、グループB、個別通話用)行います。

パスワードの認証に失敗すると下のような画面表示になり、グループ内で通話や履歴の確認などの操作ができなくなります。アプリの再起動、または通話先の選択画面で「保存」をすると再度「パスワードの入力」画面が表示されます。



※E2E 暗号化を有効にする際に Buddycom アプリを起動していた場合は、通話先に設定されているグループの認証パスワードの入力画面は自動で表示されません。

一度、Buddycom アプリを再起動するか、通話先の選択画面を開き設定を変更せずそのまま「保存」を押して TALK 画面に戻ると認証パスワードの入力画面が表示されます。

6.3 パスワードの変更

E2E 暗号化のパスワードの変更は 2 種類あります。

6.3.1 全グループ/個別通話のパスワード変更

テナント内の全てのグループと、個別通話用の E2E 暗号化のパスワードが変更されますので、パスワードの変更後に、ユーザーはアプリにて参加している全てのグループと個別通話用のパスワード入力が必要です。

設定画面から「E2E 暗号化」を選択し、「新しいパスワード」をクリックし、新しいパスワードを入力し保存します。

buddycom Console admin@sample

設定 E2E暗号化の設定

E2E暗号化を利用するかどつか、および暗号化に使用するパスワードを設定します。

E2E暗号化を利用すると、端末間でのみデータを復号できるようになり、データの秘密性が向上します。各グループに接続する際に、ログイン後1度のみパスワードの入力が必要となります。

以下の機能は利用不可となります。

- 音声テキスト化
- トランシーバー翻訳
- データ保存
- 動態管理

※利用するに変更した場合、利用不可の機能はグループのオプションから強制的に外れます。
※既にログイン済みの場合はグループ選択、またはアプリ再起動をしてください。

この画面で設定したパスワードが全てのグループ、および個別通話に設定されます。グループ別にパスワードを設定する場合は、「ユーザー&グループ」メニューから設定できます。

E2E暗号化を利用するには以下のバージョンのアプリをご利用ください。
Android 2.0.32 以上
iOS 2.0.25 以上

編集

E2E暗号化	利用中	新しいパスワード
--------	-----	----------

6.3.2 指定のグループのパスワード変更

任意のグループのみ E2E 暗号化のパスワードを変更します。

パスワードの変更後に、ユーザーはパスワードの変更を行ったグループのみアプリにてパスワードの入力が必要です。

ユーザー & グループ画面から、パスワードを変更したいグループを選択し、グループ情報の E2E 暗号化の「新しいパスワード」をクリックし、新しいパスワードを入力し保存します。



※指定のグループのパスワード変更後に、「E2E 暗号化の設定」画面にて、新しいパスワードを設定した際は、「E2E 暗号化の設定」画面のパスワードに上書きされます。

6.4 E2E 暗号化の制限事項/注意事項

・一部、利用できない機能があります。利用できない機能については「E2E 暗号化有効時の主な機能について」の表をご確認ください。

・アプリの対応バージョン

iOS 版アプリバージョン 2.0.25 以降、Android 版アプリバージョン 2.0.32 以降のアプリで強制起動に対応しています。それ以前のバージョンのアプリは強制起動できません。

E2E 暗号化有効時の主な機能について

機能	E2E 暗号化が有効時の利用	E2E 暗号化が有効時の履歴保存
音声通話	利用可能	保存なし
音声テキスト化	利用不可	—
翻訳	利用不可	—
ライブキャスト	利用可能	保存なし
テキスト(チャット)	利用可能	保存あり
画像	利用可能	保存あり
マップ通話	利用可能	保存なし
動態管理	利用不可	—

※音声テキスト化/翻訳機能と音声データ/ライブキャストの保存は、E2E 暗号化の設定を有効にした際にグループから強制的に外れます。

7 クライアント設定

※この機能は、Talk Enterprise プランまたはLivecast Enterprise プランで、利用できます。

全ユーザーのアプリ設定を一括管理することができます。

7.1 クライアント設定の追加

クライアント設定オプションを契約頂いた直後は、クライアント設定が作成されていません。「+追加」ボタンをクリックして、クライアント設定を作成してください。



7.2 クライアント設定の編集

デフォルト設定をクリックし、画面右上の「編集」ボタンから編集を行います。



編集可能な項目

右側の「有効/無効」スイッチをオンにし、設定値を変更した後に「保存」します。

有効の項目のみアプリに設定値が反映されます。(無効の項目は、アプリ内で各ユーザーが自由に設定を変更することができます)

管理コンソールのクライアント設定は、アプリの再起動または、設定から 15 分後に自動で反映されます。

表 2.6.2.a)-1 クライアント設定項目一覧

項目	設定値	OS
OS 起動時の自動実行	オン・オフ	Android のみ
サブボタンの動作(左右)	使わない・NFC・カスタム URL スキーム・VOX のショートカット・Face to talk のショートカット・セカンドグループへの発信・画面操作のロック(Android)・メタデータリーダー・定型文を送信	
カスタム URL スキームの設定値	入力してください	iOS のみ
カスタム URL スキームの設定値 (パッケージ名)	入力してください	Android のみ
カスタム URL スキームの設定値 (クラス名)	入力してください	Android のみ
バックグラウンドモード	オン・オフ	iOS のみ
画面をスリープにしない	オン・オフ	Android のみ
定型文タイトル(1~10)	入力してください	
定型文(1~10)	アクションを選択し、設定をしてください	
画面ボタンの動作	ボタンを押しながら通話・ボタンを押して通話開始/終了	
外部ボタンの動作	ボタンを押しながら通話・ボタンを押して通話開始/終了	
ミニトークボタンの動作	ボタンを押しながら通話・ボタンを押して通話開始/終了	
Face to Talk を有効にする	オン・オフ	
エコモードを有効にする	オン・オフ	
VOX を有効にする	オン・オフ	
翻訳結果の自動読み上げ	オン・オフ	
テキスト受信時の自動読み上げ	オン・オフ	
読み上げ対象のグループ	話すを設定しているグループ・話す/聞くを設定しているグループ	
撮影時に送信確認画面を表示する	オン・オフ	Android のみ
現在地の取得	オン・オフ	
位置情報の送信	オン・オフ	
使用するマップコンポーネント	AppleMap・GoogleMap	iOS のみ
マップのタイプ	ノーマル・衛星写真	
位置情報の送信間隔	5 秒・30 秒・60 秒・300 秒	
再接続時のアラート音のボリューム	0~100	
音声のボリューム	0~200	
電話中の音声のボリューム	0~200	Android のみ
マイクのボリューム	0~200	
操作音のボリューム	0~100	
受信時のピープ音のボリューム	0~100	
効果音のボリューム	0~100	
強制起動時のアラーム音のボリューム	0~100	
エコモードのボリューム	0~100	
ボリュームロックを無効にする	無効にする	
マスターミュートを無効にする	無効にする	
音声通知	オン・オフ	

フォアグラウンド時に通知を表示する	オン・オフ	
音声受信時	オン・オフ	
音声受信時の振動	オン・オフ	
音声受信時の振動パターン	パターン 1~4	
メッセージ受信時	オン・オフ	
メッセージ受信時の振動	オン・オフ	
メッセージ受信時の振動パターン	パターン 1~4	

※設定から 15 分後に Buddycom アプリに反映されます。

「OS 起動時の自動実行」を変更した際は、変更反映後に Buddycom アプリを再起動してください。

※クライアント設定の編集を行ったテナントのユーザーは Buddycom アプリの設定画面にて、当該設定の変更ができなくなります。(Android 版は設定画面にて設定の変更を行っても、変更が反映されず、クライアント設定が適用されます。)

—以上—